

令和7年度 評価計画及び自己評価

(計画) (中間) (最終)

阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小学校

a 学校教育目標	自ら伸びるとともに伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	(ミッション)(学校の使命) ・地域との協働のもと 主体的・自律的に生きる子どもを育成する。 (ビジョン)(将来の学校像) ・阿賀学園地域教育連携協議会(アガデア)の活動を生かして、「活気ある楽しい学校」「保護者・地域から信頼される学校」「やりがいのある学校」を目指す。
----------	--------------	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	阿賀中学校区は研究テーマを「主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒の育成」と設定し、小中の教職員が一丸となり研究を進めてきている。その成果として、子ども達の実態や多様性を共有し、個への働きかけや支援の充実を図り、「居場所ひろげ・ふかめ」と深化することができた。個の支援の充実を図りながら教育実践を積み重ねた結果、阿賀中学校区の授業スタイルは確立し、SSR等も効果的に活用することができている。今年度は児童一人一人の実態に応じて、授業や生活の中で特別支援教育の視点を生かしたコミュニケーションを行いながら、「居場所ひろげ・ふかめ」のさらなる発展に取組んでいきたい。 めざす子ども像 自分の考えをもつ子ども・最後までやりきる子ども・認め合い励まし合う子ども		
------------------------------	--	--	--

育成を目指す資質・能力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	自らへの自信	思いやり・感謝・貢献
-------------	-------	-------------	--------	------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	学力の向上(確かな学力の育成)	基礎基本の学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査等の課題を踏まえ、指導の重点を定める。 「ドリルタイム」を年間計画に従って継続して取り組む。 漢字・計算の反復練習や課題克服のための学習を実施する。 個の課題に応じて、個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査において正答率30%未満、無回答率を「0」をめざす。 標準学力調査で全国平均より全校平均がプラス18点以上をめざす。(※各学年プラス3点以上) 国語と算数の単元テストの平均点 	95% 100%	81% 81%	85% 85%	B B			
			<ul style="list-style-type: none"> 授業改善を進める。 ①問いづくり ②考える時間が確保された授業設計 ③自在な対話の場面設定 ④発展的ふりかえりの時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の授業満足度(よくわかる) 	85%	87%	102%	A			
**	自尊感情の高揚(自己指導能力の育成・生きる力の育成・安全安心な風土の醸成)	規範意識を高める。 思いやりの心を育てる。 コミュニティスクールによる地域との協働 「自分の命は自分で守る」力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生活目標を示し、「返事・あいさつ・くつそろえ」を点検させる。 掃除を無言で行う。 子どもの心に寄り添った働きかけ、縦割り班活動やクラスチャレンジ、AJV等の活動の充実を図る。 友達よさを見つけたり、「ほかほか言葉」を使ったりする。 いじめを許さない環境づくりを行う。 学校運営協議会を年間4回開催する。 「呉市防災教育の手引き」等を活用した授業づくり 安全指導・避難訓練の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 「返事・あいさつ・くつそろえ」の自己評価 「学校が楽しい」の自己評価 「自分にはよいところがある」の自己評価 将来の夢や目標をもっている。 「阿賀のまちが好きである」児童の割合 「阿賀のまちをよりよくするために何かしてみたい」児童の割合 「災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合 	90%	89%	99%	B			
					85%	86%	101%	A			
					85%	87%	102%	A			
					85%	88%	103%	A			
					90%	92%	102%	A			
					80%	88%	110%	A			
*	基本的生活習慣の定着と体力の向上	健康な生活を増進させる。 体力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学級担任、養護教諭、栄養教諭が連携した食に関する授業や食育朝会を行う。 定期的にあがっ子生活カードで点検し、保護者啓発を促す。 体育授業の充実、「阿賀小準備運動」・「あがっ子運動」を実施する。 体力テストに向けて体力アップキャンペーンを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「早ね・早おき・朝ごはん」の達成率(毎日朝ごはんを食べる。) 新体力テスト(50m走、ちよう座体前屈、反復横とび)が県平均を上回る。 	97%	95%	98%	B			
					65%	28%	43%	D			

業務改善	やりがいのある学校づくり	児童生徒と向き合う時間を確保する。	・会議時間、研修時間等を短縮する。	児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80%	92%	115%	A			
		長時間勤務を削減する。	・平日18時30分退校、週1日17時退校を徹底する。	時間外勤務が月45時間を超えない教職員の人数	96%	64%	67%	C			

[k: 評価]
A: 100 ≦ (目標達成) B: 80 ≦ (ほぼ達成) < 100
C: 60 ≦ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

令和7年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学力の向上 (確かな学力の育成)	<p>Ⓢ</p> <p>基礎基本の学力の定着を図る。</p>	<p>●全国学力・学習状況調査の正答率30%以上の児童の割合については、国語90.1%、算数83.9%、理科69.0%、無回答率「0」の児童の割合は、国語81.6%、算数77.4%、理科84.5%、単元テストの平均点は、国語85.7%、算数82.5%で、全国学力・学習状況調査に大きな課題が見られた。</p> <p>また、授業満足度は、93.4%だった。</p> <p>キュピナのワークブック作成で、内容や時期等ドリルタイムを計画的に行うことができた反面、個々の学力・満足度とテスト等の結果に開きが見られた。各教科の課題を改善していくためには、基礎基本の学力を定着していく必要があるとともに、日々の授業改善を行い、児童の学力の向上を図ることが必要不可欠である。</p>	<p>・学力の向上については、早急な改善が必須である。研修を基に教材研究を行うとともに、月に1回以上、授業づくりについての研修を設定し、早急な授業改善を図っていく。</p> <p>国語科では、音読・視写を継続するとともに、言語活動を必ず位置付ける。キーワードに着目させる授業構成を行い、読む力の向上を図る。また、算数科では注目する言葉に印をつけたり、具体物を使ったり、図式化することで文章題の題意を読み取ることができるようにする。また、どの教科においても系統性を考えた授業づくりを行う。</p>
**	自尊感情の高揚 (自己指導能力の育成・生きる力の育成・安全安心な風土の醸成)	<p>Ⓢ</p> <p>規範意識を高める。</p> <p>Ⓢ</p> <p>思いやりの心を育てる。</p> <p>コミュニティスクールによる地域との協働</p> <p>「自分の命は自分で守る」力の育成</p>	<p>○●「返事、あいさつ(学校)、くつそろえ」とも、目標値を達成したが、地域でのあいさつは、目標値を少し下回った。</p> <p>1学期の生活目標で「返事・あいさつ・くつそろえ」を意識させることができた。</p> <p>○「学校が楽しい、自分にはよいところがある、将来の夢や目標をもっている」も目標値を上回った。</p> <p>○●「学校が楽しい」という児童は目標値を達成しているものの、「明日も学校に来たい」と思う児童は81%にとどまった。</p> <p>いじめ撲滅決起集会を行ったり、いじめアンケートで積極的に認知を図ったりすることでいじめを許さない風土の醸成を図った。</p> <p>○「阿賀の町がすき・何かしたい」の2つとも目標値を上回った。</p> <p>●災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合は、94%と目標値に達しなかった。</p>	<p>・目標値に到達しなかった項目は、1学期の目標をレベルアップする形で目標に組み入れ、継続することで意識をさらに高めていく。また、生活目標を先月の課題を踏まえるなどして系統性をもたせていく。</p> <p>・挨拶をする意味等を朝会で説明することで共通認識をもち、日々声を掛け続けていく。また、挨拶をする場面や挨拶の仕方、目標人数等、具体的な目標を設定するとともに、必ず評価を行う。</p> <p>・行事、学級遊びや帰りの会等で、良い行動を褒める場やお互いを認め合う場を意図的に取り入れ、継続的に設定する。</p> <p>・生活科や総合的な学習の時間で、地域とのつながりを実感させたり、地域の方の思いを知る活動を取り入れることで、自分たちの住む「阿賀」への愛着を高めていく。</p> <p>・防災授業だけで終わらず、身近な話を取り入れたり、社会科や理科等で関連させたりすることで、防災意識を高める。また、定期的に確認する時間を設定する。</p>
*	基本的な生活習慣の定着と体力の向上	<p>健康な生活を増進させる。</p> <p>体力の向上を図る。</p>	<p>○●毎日朝ごはん(肯定的評価)は94.9%であり、昨年より1.4%低下した。</p> <p>○生活アンケートでは、「毎日朝ご飯を食べている」児童は87.5%であり、昨年度より1.2%増加していた。</p> <p>●新体力テストでは、「50m走50%、反復横跳びは33.3%、長座体前屈は0%」と県平均を上回った割合は目標値に達していない。</p>	<p>・学年通信や懇談会等で保護者と必ず連携するとともに、啓発し続ける。また、個別で本人と話をする等して、本人の意識を高める。</p> <p>・食育朝会において、簡単朝食レシピを紹介するとともに、毎朝食べることの啓発を行い児童の意識を高める。</p> <p>・瞬発力や柔軟性が身に付くよう、運動委員会でキャンペーンをしたり、毎朝の体力アッププログラムの徹底を図ったりする。</p> <p>・体育科の授業で行っているサーキットの質を高めたり、授業の際には、具体的な目標値を学習に取組ませたりする。</p>
業務改善	やりがいのある学校づくり	児童生徒と向き合う時間を確保する。 長時間勤務を削減する。	<p>○●児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合は、91.7%。月45時間を超えない教職員の人数の割合は、64.4%であった。</p> <p>●時間外勤務月45時間を超過した教職員は、4月30%、5月57%、6月27%であった。行事があると、業務が忙しくなり45時間を超過する教員が増えるので、計画的な取組が必要となる。</p>	<p>・学年会を計画的に位置付けることにより、効率的に準備をすることができている。</p> <p>・生徒指導に係る時間を減らせるように、児童理解や、児童同士のかかわりを増やし未然に防ぐ取組を行う。</p> <p>・時間管理の工夫や優先順位の明確化をする。</p> <p>・行事や提出物が多い週等では、日程を工夫し、業務に充てる時間を確保していく。</p>

令和 7年度 学校関係者評価及び改善策

中間・最終)

阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	中期・短期とも適切に設定されている。「コミュニティスクールによる地域との協働」に対する指標で、阿賀の町に対するものだけが入っていることに、少し違和感がある。 目標、指標とも分かりやすく適切である。
目標達成のための方策の適切さ	A	具体的である。 児童生徒の生きる力を育むバランスの取れた方策だと感じた。 児童向けの方策は適切だと思う。それを達成するためには、先生方のご尽力が非常に大切だと思うが、そうすると先生方の働き方改革が難しくなるように感じる。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	数値を根拠に丁寧に分析されている。 適切で客観的な分析である。 課題解決に向けて、細かく改善策を設定されている点が評価できる。 具体的な指標をベースに適切な自己評価をされていると思う。 タブレット教育のデメリットも考えながら、教育活動を行ってほしい。「書く」ことも、疎かにしないでほしい。
今後の改善策(案)の適切さ	A	学力の向上、体力向上、時間外勤務の削減は重要であるが、短期間で改善できることが難しい課題である。 改善策の内容が明確である。 辞典を活用するのは、子供たちにとってとても良いことだと思った。 改善策を実施するには、先生方の努力が必須だと思うが、それが先生方の過度な負担となってしまえば、うまく長続きしないように思
その他		雨天延期で開催された運動会で、高学年を中心に児童が頑張ってる姿に感動した。校長先生の学校経営方針のもと教職員に見守られ、温かい雰囲気の中、児童が落ち着いて授業に取り組んでいる。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	学校運営協議会で様々な意見が出て、地域の願いも理解できた。学校の教育課程の中でできることとできないことがある。地域人材を効果的に活用して、小中の素晴らしい取組を積極的に配信してほしい。 また、校長先生が優先順位として一番にあげられた学力向上について改善策を着実に実行し、目標達成できることに期待している。
--------------------	---